

議会による事務事業評価（西川町議会）

	予算科目	事業名
1	3款1項1目 社会福祉総務費	路線バス事業に要する経費

1 項目別評価

評価項目	評価点	意見等
1 必要性 町民ニーズ	25	高齢化が進む西川町において、町営バス（公共交通機関）の必要性は今後益々高くなっていく。 他の公共交通機関が無く、町営バス（公共交通機関）は町民にとって重要な足である。
2 妥当性 町が行わなければならないか	25	民間交通事業者が皆無の町にとって地域公共交通網の環境を整備するのは町の責務である。 地域住民の快適な暮らしを守るため町で積極的な対策を取るべきである。
3 効率性 事業手法の効率はよいか。コスト削減の余地はないか。	9	現在の乗車人数を考慮すれば、マイクロバスだけでなくワゴン車等の小型化を検討しコスト削減を図り、デマンドバス運行等のきめ細かい運行体制を検討していくべきである。 町立病院への通院バス、交通弱者の買い物バスなど利用形態に応じたバス運行を図り、利用者の増加を図るべきである。
4 成果 目標の達成状況	12	寒河江線については、民間交通が運行していた場合より運行本数2便増、電車の発着に合わせた運行等は評価できる。 急激に少子高齢化が進む町にとって高齢者や子供たちの足の確保という面では一定の成果があるが、町民が利用し易いきめ細かな対応が不足している。

2 全体評価

評価	評価基準	合計評価点
3	1 きわめて良好である	100点
	2 良好である	75～99点
	3 おおむね適正である	50～74点
	4 問題がある	25～49点
	5 かなり問題がある	1～24点
	6 不適正である	0点
		71

3 今後の方向性

評価	評価基準	判定理由
3	1 拡充する	町立病院通院者の帰りのバスは、運行本数が少なすぎ待ち時間が長くて利便性に欠ける。きめ細かい運行形態の見直しが必要。 高齢者が利用しやすいようにフリー乗車区間の増大を検討すべきである。 毎日運行でなく、曜日運行等を検討し効率化を図るべき。 運行経費を考慮すれば、今後、運賃等の見直しも必要である。
	2 現状のまま維持する	
	3 改善し継続する	
	4 見直しのうえ縮小する	
	5 期間設定し終了	
	6 廃止する	

4 評価に係る意見等

事業の総合評価に関する主な意見、特記事項及び今後の方向性の理由等
<p>基幹路線（寒河江線、谷地線）と集落路線を区別し、集落路線については、小型車両によるデマンド運行に移行すべきである。</p> <p>現在の体系連絡調整会議は運行する側（身内）の会議であり、利用する側の人を入れた会議とし、住民の意見を取り入れ、ニーズを十分把握した運行体制を構築すべきである。</p> <p>事業評価の全体評価では「71点、おおむね適正である」との評価であるが、これは必要性、妥当性の項目が高かった結果であり、効率性、成果の項目においては問題があり、今後、事業に対する見直し、検討が必要である。</p> <p>現在、スクールバスについては一部が混乗路線となっており、町営バスの運行についてはスクールバス運行と一体となった全体的な運行体制を構築すべきである。スクールバスを含め必要とするバスの台数や更新時期、小型車両化の計画等を立てる必要もある。</p>